

サービスレベルを前提にした地域移動環境計画の立案と実験的取組

観光立町宣言 湯沢町企画観光課 富沢雅文 平賀大裕 / 湯沢町観光まちづくり機構 (DMO) 貝瀬健太 藍澤武永
湯沢町 エヌシーイー (株) 高橋貴生 高倉拓実 / (株) ドーコン東京支店 諸星賢治 松村葵 / 湯沢町地域活性化起業人 ((株) ドーコン) 小美野智紀
君と一緒に暮らす町

背景と目的

これまでの取組

湯沢版 MaaS 実証実験 (2021 年夏季)

スキー場関連冬季観光交通情報提供実証実験 (2021-22 シーズン)

実験から把握できた町内のニーズ・課題

- 路線バスをはじめとする公共交通の維持・町民や来訪者の利便性向上 (高頻度化・混乗)
- 観光二次交通の活性化、夜間の観光交通需要喚起 (夜間観光ニーズが潜在的に存在)
- 観光における人手不足 (タクシー不足・宿泊施設の供食能力低下) を移動から解決



プロジェクトの内容

計画の策定



計画書のダウンロードはこちらから

Point 1 関連計画の一元化

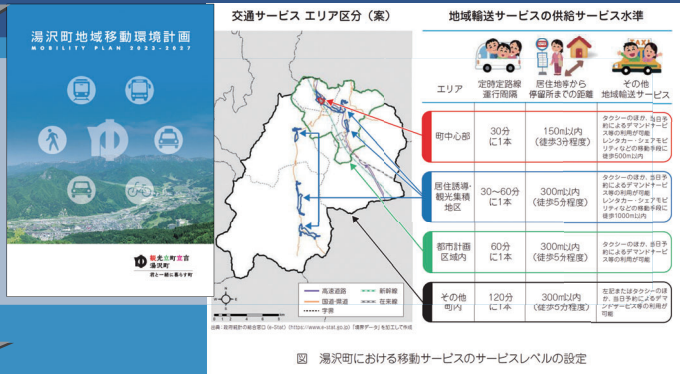
地域公共交通計画・自転車活用推進計画他の計画を統合

Point 2 サービスレベルの設定

町内を立地適正化計画をベースにした4地域に区分し、地域交通として提供するサービスレベルを設定

Point 3 観光事業者送迎バスと路線バスの統合

町内の輸送資源を効率化し、サービスレベルの達成を図ること、町民の日常的な移動と観光客の利便性向上を目指す



喫緊の課題対応を先行して実施

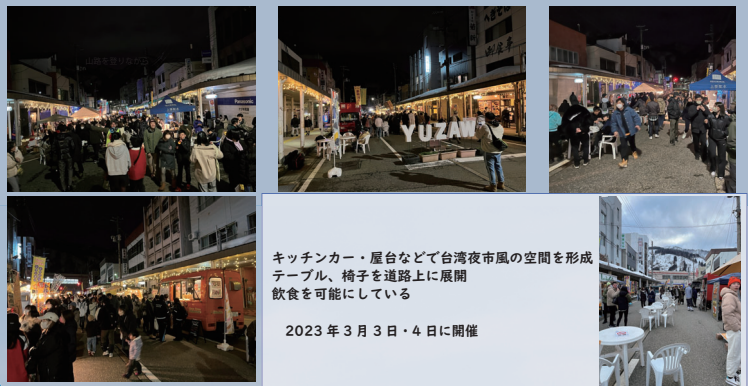
実験①公共交通情報の提供

- 路線バス・スキー場送迎バス・ホテル送迎バスに系統番号を設定
- 乗り場案内スタッフを所属に関係なく統一したビブス着用で明確化
- 発車時刻案内や乗り場案内を駅の協力を得て設置



実験②夜間需要喚起に向けた実験

- 越後湯沢駅東口駅前通りを全面通行止めとして「ナイトマルシェ」を実施
- 路線バスの夜間増便、ホテル送迎バスの混乗を実施



キッチンカー・屋台などで台湾夜市風の空間を形成
テーブル、椅子を道路上に展開
飲食を可能にしている
2023年3月3日・4日に開催

効果

- コロナ禍後の大幅な観光客の復活や、インバウンドの増加などに対しても円滑に誘導が可能に
- 特に系統番号は店舗従業員や駅係員、バス乗務員からも好評。大きな効果を生んでいる

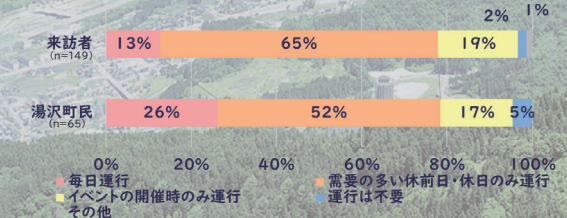


- ナイトマルシェ2日間の開催で、4500人の来場者
- 泊食分離などによる新たな需要の喚起に成功
- 夜間増便したバスは10人以上の利用 特に最終便は20人の乗車 → 町民から高い評価と、更なる推進や定期化の要望も大きくみられる

Q 夜間のバス増便やホテル送迎バスに乗りできることはいかがですか？



Q 今後ナイトシャトルバスを導入する場合の程度の運行が必要だと思いますか？



結論

- 町民含め情報提供や夜間交通サービスの拡充に対する高い期待を把握
- また、地域の活性化に寄与する点や、町民や観光事業者にとって一つの成功体験となり、施策展開をさらに進めていくための合意形成に寄与
- 今後夏期におけるアクティブツーリズム拡大などをと併せ公共交通サービスのさらなる拡充を含め推進

